【シーラカンスの展示】

シーラカンスは、今すでに絶滅する危険性がある生き物として平成３年にワシントン条約附属書Ⅰに掲載され、商業目的での展示は許されていない。深海水族館で展示している５体（冷凍標本２体、剥製（はくせい）３体）は、ワシントン条約で規制される前に正式に展示の許可を得たため、世界で唯一、シーラカンスを見ることができる水族館となっている。

深海生物の価値をゼロにして考えると、魅力を伝えるためにすべきことが見えてくる

オンリーワンで勝負した深海水族館のプロデュース

【市長】 それは良い出会いですね。そうして深海水族館のプロデュースが始まったということですが、深海水族館には深海生物とシーラカンスが展示されていますが、テーマとしては、どちらが先だったんでしょうか。

【石垣】 シーラカンスですね。当時、国内でシーラカンスの営業権を持っているのは私だけだったんです。実は海外に売ることが決まっていたのですが、生きた化石と言われる貴重なシーラカンスを展示して多くの人に見てもらいたいと思っていました。その時に、深海水族館の話がでましたので、深海に暮らすシーラカンスを展示するなら駿河湾に面した沼津しかないと一瞬でビビッときました。

駿河湾は、最深部が2500メートルを誇る日本一深い湾です。その日本一の駿河湾と世界で唯一のシーラカンスを展示する水族館として勝負すれば、必ずオンリーワンになれると思ったんです。

【市長】 なるほど。オープニングセレモニーで「沼津でワクワクするような施設が久しぶりにできました」と挨拶（あいさつ）させて頂いたのを今でも覚えています。

【石垣】 はい。私も印象深く覚えています。

【市長】 これ程までの人気は想定していましたか。

【石垣】 想定外でしたね。水族館の業界では前例のない、10年間で200万人の動員を目標にしていましたが、3年2カ月で100万人を達成したんです。この人気は自分でも驚きました。今も入館者数は伸びています。

価値をゼロにして考える発想の転換

【市長】 深海の魅力というのは、まだ謎に包まれていて、どんな生物がいるのかまだわからないミステリーに満ちた世界というのがあると思いますが、深海水族館はどうしてこんなに人気があるのでしょうか。

【石垣】 まず第一に深海生物の見せ方を工夫したことが大きかったと思います。深海生物が棲息（せいそく）する深海は真っ暗で、明るい所は苦手です。生物の色も地味で柄もなく、動きもしない。一般の水族館で展示するにはつまらない要素をたくさん備えたのが深海生物でした。

【市長】 それは大変ですね。

【石垣】 はい。だからまず、深海生物の魅力を知らない人の目線に立って、どのようにしたら興味を持って見て頂けるかを考えました。

深海生物は大好きだったのですが、普通に展示したらつまらない、見に来る人がいないのではないかと、深海生物の価値を思い切ってゼロにしたんです。そして、深海生物をわかりやすく、可愛らしく演出するにはどうすればいいのかと考えました。深海生物の価値をゼロにすることで、魅力を伝えるためにすべきことが見えてきたんです。そこに気づいたことが一番大きかったと思います。

深海生物の魅力を引き出す照明演出

【市長】 なるほど。そうした中で大きく工夫されたところはどういったところですか。

【石垣】 照明演出です。一般の水槽であれば、一様の明るさが照らされるのですが、蓋に工夫をして差し込む光の箇所を限定しました。

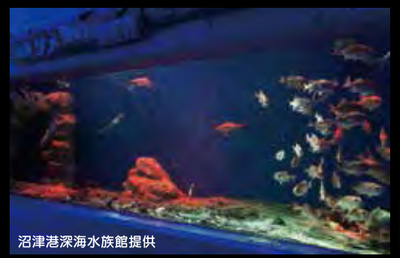
私はもともと舞台技術が好きで、大学でミュージカルや舞台技術を学んでいました。舞台では照明の差し込む場所が決まっていて、そこに俳優が立つ。深海生物の展示も同じように、水槽に色や光が差し込む場所を限定することで、深海生物が俳優のようにスポットライトを浴びるよう演出しました。

【市長】 一般の水族館では、一様の明るさの大きい水槽にいろいろな魚が泳いでいる。しかし、この方法では、深海生物はウケないだろうと考えたんですね。

【石垣】 そうですね。どのようにしたら深海生物の魅力を引き出し、高められるかいろいろと考えました。

沼津港深海水族館提供

浅い海と深い海の雰囲気を演出



沼津港深海水族館提供

一つの水槽内に明るい場所と暗い場所を演出

世界で唯一のシーラカンスの冷凍標本

沼津港深海水族館 シーラカンス・ミュージアム

平成23年沼津港に、日本で初めてとなる深海をテーマとした水族館として開館。石垣館長やスタッフが底引き網漁の船に乗って捕獲したメンダコなど、日本一深い駿河湾に暮らす深海生物を中心に、海外からも集めた深海生物を展示している。

また、深海生物の生態や深海の環境を楽しく学べる実験室「沼水ラボ」では、普段は学べない深海の不思議を体感できる。

住所：千本港町83　☎055-954-0606